

薬用植物の国内生産拡大に向けた 厚生労働省の取組

平成25年10月15日

厚生労働省医政局経済課

矢作 均

漢方薬市場の現況と動向等

漢方薬市場の現況

○平成23年における国内医薬品生産金額

◆全体:6兆9,874億円

◆うち漢方製剤等:1,422億円(全体の約2%)

(内訳)医療用:1,164億円(構成比約82%)

一般用: 258億円(構成比約18%)

漢方薬市場の動向

○直近5年間の生産動向(H19~H23:生産金額ベース)

・医療用漢方製剤等:1.23倍

(医療用医薬品全体では1.09倍)

・漢方薬全体(一般用含む):1.16倍

(医薬品全体では1.08倍)

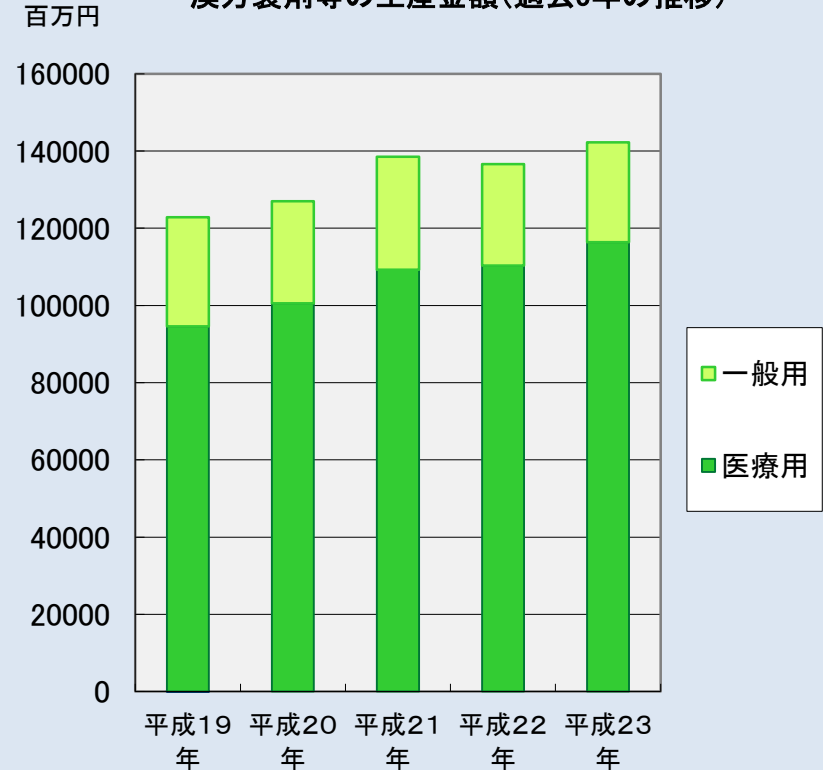
<薬事工業生産動態統計年報>

原料生薬の調達現況

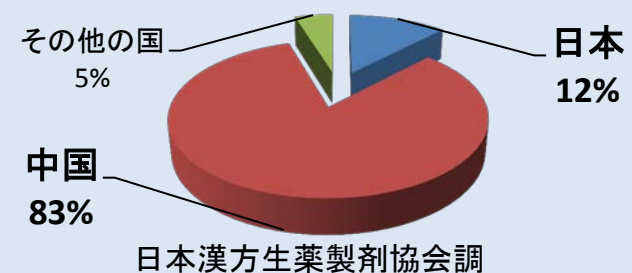
○医薬品原料として使用される生薬の年間総使用量は、約20,000トン

○気候・土壌、成分含有量など品質、価格の面などから、生薬使用量の83%は中国産 国産は12%

漢方製剤等の生産金額(過去5年の推移)



原料生薬生産国別調達状況(H20)



薬用植物の国内生産拡大に向けた取組

1. 薬用植物の国内栽培の拡大に向け、農林水産省と連携し、次の取組を実施

- ①「薬用作物に関する情報交換会」を開催し、漢方業界団体や生産団体、地方自治体等と情報の共有、取組の方向性等の確認(第1回:H24.11 第2回:H25.1 第3回:H25.3)
- ②「薬用作物の産地化に向けたブロック会議」を開催(H25.8~9 全国8ブロック)し、生産者と使用者(漢方メーカー)とのマッチングを実施。

2. 薬用植物の栽培技術の確立等に向け、厚生労働省 及び 独立行政法人医薬基盤研究所／薬用植物資源研究センター において次の研究等を実施

①独立行政法人医薬基盤研究所／薬用植物資源研究センターにおいて、

- ◆薬用植物資源(種苗)の収集・保存
- ◆薬用植物の栽培技術研究 等を実施。

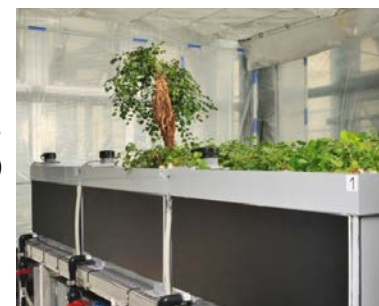
※保有する薬物資源
保存種子
約13,000点 他



②厚生労働科学研究として、

- ◆漢方の臨床的有用性のエビデンス確立に向けた研究
- ◆薬用植物の栽培技術・生産技術の確立に向けた研究 等を採択・推進

※厚生労働科学研究費による研究成果例
(独)基盤研、鹿島建設(株)、千葉大学
が連携して開発した『薬用植物(甘草)
の人工水耕栽培システム』(右写真)。
現在、実用化に向けた研究を継続。



年度	漢方関連採択課題	予算額
平成21年度	7課題	約0.6億円
平成22年度	29課題	約9億円
平成23年度	31課題	約8億円
平成24年度	30課題	約8億円

I 薬用植物資源(種苗)の収集・保存 (独立行政法人医薬基盤研究所／薬用植物資源研究センター)

(種子・種苗の管理目録化と、要望に応じた種子・種苗の頒布)

- ・「植物目録 (List of Plants 2011)」の刊行
- ・「種子交換目録 (Index Seminum 2011)」の刊行



(薬用植物資源の新品種育成に関する研究)

- ・ハトムギ新品種「北のはと」「はとろまん」や、
- ・シクヤク新品種「べにしずか」「No.513」の育成・品種登録



(漢方薬に使用される薬用植物の総合情報発信)

- ・「薬用植物の総合情報データベース」の構築



II 薬用植物の栽培技術研究の例

(伝統栽培・加工技術の科学的検証と保存)

- ・「薬用植物栽培指針」の刊行



(漢方薬に使用される薬用植物の新規栽培技術開発)

- ・ウラルカンゾウ人工水耕栽培システムの開発



- ・マオウの育種・栽培研究

